



令和7年度 市民活動補助金交付事業

実績報告に対するコメント

市民提案型
スタート事業

令和7年度に市民活動補助金を活用し、様々な地域課題の解決に取り組んだ13団体から、事業の実績報告がありました。

事業を支援してきた安城市民活動センターから団体へのコメントです。

◆◆事業を実施した13団体へのコメント◆◆

①井杭山卓ボラ会 「卓球療法サロン」

心身の健康維持・向上・予防効果があり、認知症予防やリハビリの効果もある「卓球療法」を年齢・障害の有無に関わらず普及させることを目的に、講師を呼びサロンを開催。

パーキンソン病の方が、「自分の体が動くことが分かった」と喜ぶ姿が見られた。町内会でのニーズを感じた。

Comment

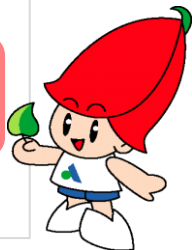
「楽しそう！」という純粋な感動が、地域の枠を超えて伝播していく様子に、市民活動の理想的な形を見せていただいた気がします。これからも、誰もが楽しく体を動かし、繋がれる場づくりを応援しています。



見方

団体名
「事業名」

実施事業内容
事業効果等



②一杯の味噌汁プロジェクト with 本證寺 「豆のがっこう」



市内の休耕地を大豆畑として再生を図り、大豆栽培から味噌の仕込みに興味のある親子に対して、様々な体験を通して食や農について学ぶ「豆のがっこう」を開催。

環境・食育・農作業の楽しさなどをみんなで学び、共有することができた。地域とのつながりが深まり、本證寺を中心としたまちづくりに貢献できた。

Comment

東日本大震災をキッカケに秋田県から始まった味噌汁プロジェクト。野菜作りの大変さを感じたり、地域住民からの脱穀機提供など温かいサポートを得て、環境・食・地域での多世代交流がされたことから、子どもたちに「生きる力」を伝えられた様子がInstagramからも伝わります。毎年実施し、畑とともに育つたくましい子どもを地域で育てていってください！

③形象派美術協会ボランティア部 「感性トレーニングによるスケッチ・デッサン体験講座(創造力をアップしよう!)」

現在、安美展への安城市民の応募・受賞者が半数以下となり、作品のレベルも低くなってきている。将来の絵画制作や展示会等への応募者を増やすきっかけとするための体験講座を開催。

感性トレーニングという抽象的なテーマにも関わらず、幅広い年代の参加があった。絵画の楽しさを体験し、将来への期待を感じられる講座となった。

Comment

講座には、学生、会社員、主婦、シニアといった幅広い年齢層の方々が参加され、わくわくセンターのホールが一瞬にして「美術大学?!」と思うような静かだけど熱量のある場となりました。数量化できないパワーですが、アートを楽しむ市民の育成は、まちの豊かさを底上げするものと感じました！



④しっぽ

「動物愛護・野良猫の TNR 活動の啓発活動」



野良猫の繁殖を抑える TNR (Trap 捕獲、Neuter 不妊手術、Return 元の場所に戻す) 活動を推進するため、獣医師を講師に招き TNR の有効性を学ぶ講座を開催するとともに、チラシを配布し啓発活動を実施。

たくさんの参加者がいるイベントにおいて、獣医師を招いた講演会を実施し、TNR (Trap 捕獲、Neuter 不妊手術、Return 元の場所に戻す) の有効性を伝えることができた。

Comment

「TNR活動」という、地道で根気がある「野良猫の命との共存」という難しい活動に光を当て、動物愛護の啓発をありがとうございます。命に優しい街づくりのパートナーとして、引き続き活躍されることを願っています。

⑤西三河野生生物研究会

「身近な自然観察会」2025」

身近な生き物や環境に積極的に関わるのが好きな子どもたちの育成を目的として、昆虫や植物などの生き物の観察・実習を開催。

参加者は、身近に棲む「光るミミズ」を観察し、発光生物の研究者からの説明の後、質問に対する回答を得られたことで理解を深めることができた。



Comment

教科書や画面の中だけでなく、実際に「自分の手で触れ、五感を使って観察する」という体験から、身近な自然を大切に思う「優しい心」と、不思議を見つける「探究心」を育むきっかけになったことと思います。西三河の豊かな自然と子どもたちをつなぐ架け橋として、ますますのご活躍を期待しています！

⑥ハッピーハッピーエンジェル

「ハッピーふれあい広場」



一人暮らしの高齢者が増える中、歌やゲーム、体操など指導者を招き、認知症予防、仲間づくりを目的にした居場所を開催。

ファミリー安城古井店さんが活動を認めてくれ、会場の無償提供のほか、愛知県の「認知症県民フォーラム」でも事例として発表もしてくれた。

Comment

葬儀場という場所を、地域が繋がるポジティブな空間へ。民間事業者と一緒に、「顔見知りが増える」という安心感を築くという、斬新で温かいアイデアが愛知県でも認められて事例発表に至り、大変に素晴らしく嬉しく思います。この活動モデルが広がっていくことを期待しています。

⑦安城音楽協会

「音楽活動への参加促進啓発事業(安城音楽協会 第21回 音楽セミナー)」



市民に文化芸術に触れる機会を提供するため、ウクライナで長く指揮活動を行っていた講師による講演会を開催。

参加者は講師の生き様や考え方に触れ、演奏活動とは異なる角度からも音楽に触れることができた。また、ウクライナでの文化芸術活動について学び、共生社会への理解を深めることができた。

Comment

「文化芸術は大切」と感じつつも、どこか敷居が高く感じてしまう市民の方々にとって、皆様のような専門家が「豊かな生活への入り口」を広げてくださる活動は、まさに街の宝です。また今回は、ウクライナから講師を招き、音楽を通して平和について考える時間とされたことに感謝申し上げます。

⑧一般社団法人Team MAMA

「子どもの楽しいを増やすKOALA」

共働き世帯による子どもの孤立防止や母親の負担減少のため、小学生の居場所づくりを継続して実施。

子どもたちは異年齢との交流や初対面からの関わりを体験することができ、学校とは違う地域活動の良さを知ることができた。また、保護者からお礼の言葉もあった。



Comment

子どもたちが安心して過ごせる「居場所」と「そこに居る大人」と、地域活動ならではの「多様なつながり」の中で子どもたちが社会性や優しさを育てていく様子が目に浮かびます。子どもたちが笑顔で「ただいま！」と集まれる関係性を築くのに年数がかかりますから、継続した活動を期待します。

⑨にじいろの猫

「飼い主のいない猫のTNRと関わる人の環境改善事業」



野良猫の繁殖による環境汚染や騒音被害などを減らすため、TNR（去勢手術）活動や里親募集などを継続的に実施。また、TNRの重要性をSNSで発信。

TNRや啓発により、住民同士の軋轢が緩和された。糞尿被害に苦しむ住民からは感謝の声があった。

Comment

野良猫や地域猫の問題は、町内会でも対応しきれない難しい課題ですね。「どうにかしたいけれど、どうすればいいかわからない」と思っていた住民の方々にとっても、皆様の存在は心強い光になったはず。「今ある命を排除しない。可哀そうな命を生まない。」引き続き啓発活動をお願いします。

10 黎ねこ紹会

「まちなこサポート事業」

糞尿による悪臭や景観悪化などを防止するため、屋外用猫トイレを希望する家の適切な場所に設置。SNSやチラシなどで糞尿対策を啓発。

屋外用猫トイレの設置は効果的で、家やその他の場所での糞尿被害を防ぐことができた。また、チラシにより糞尿対策を広めることができた。



Comment

全国では2000年頃から自治体で取り組まれていた「地域猫の屋外用猫トイレ」を未啓発なまちで市民活動団体が実施するのは、理解を得るのも、費用の面でも大変なことだったと思います。設置後のメンテナンスが継続されるよう、引き続きサポートをよろしくお願いします。

11 安城市聴覚障害者福祉協会

「ハートとハンドでつながろう ～手話を知ろう～」



『安城市手話言語条例』や手話言語について市民へ認知を広めるため、デンパークのブルーライトアップ期間に合わせて啓発展示。また、手話言語の国際デーである9/23に手話をテーマとしたゲームを実施。

多くの参加があり、展示やゲームでの啓発だけでなく、手話での会話の様子を見るという機会も提供できた。

Comment

手話が音声言語と対等な「言語」であることを広めるため、世界ろう連盟(WFD)のシンボルカラーである青色でランドマークを照らす「手話言語の国際デー」啓発活動を、デンパークで実施することで、訪れた人の心に「手話という大切な言葉」の存在を強く、優しく印象づけられたと感じます。

12 NPO法人ほのぼのふぁみりー

「講演会『ホームスタート:今、求められる子育て支援の動き』」

孤独な子育てを防止するための家庭訪問型子育て事業(ホームスタート事業)についての認知を広める講演会を実施。

参加者から、ホームスタートビジター養成講座の受講・ビジターの登録につながった。男性参加者もあり、地域の関心を得ることができた。



Comment

子育ての中で「助けて」と言い出せずに一人で抱え込んでしまう親御さんにとって、「届ける支援(訪問型)」があることを知ることは、大きな安心につながったと思います。新しい仲間を得て、皆様が長年培ってきた「ほのぼの」として温かい支援の精神で事業スタートですね。ご活躍を期待しています。

13 ぐらびと

「LGBTQ+の周知・居場所づくり事業」



LGBTQ+への理解を促進する啓発チラシやポスターを様々なイベントで配布・掲示。
LGBTQ+への理解を広め、今後の啓発活動にもつなげることができた。

Comment

LGBTQ+に関する正しい理解を広めることは、誰もが自分らしく、安心して暮らせる街づくりのための大切な「土台」です。目に見える数字以上の、「誰かの心の支え」になる活動を形にされたこと、また多様性を認め合える、優しく深みのある街へとアップデートされていくことに感謝いたします。

全体を通して



今年度、補助金を活用して事業に取り組まれた全ての団体の皆様、本当にお疲れ様でした！
各団体の皆様が、それぞれの現場で試行錯誤しながら、安城市の未来のために情熱を注いでくださったことに、センター長として深く敬意を表します。

皆様の活動を振り返ると、そこには共通して「誰かの孤独に寄り添う温かさ」と「社会をより良くしようとする強い意志」がありました。

- ・パーキンソン病の方が自分の体の可能性を再発見した瞬間。
- ・子どもたちが泥にまみれて自然や食の尊さを学んだ笑顔。
- ・孤立しがちな高齢者や子育て世代に届いた「一人じゃない」という安心感。
- ・多様な背景を持つ方々が、手話やアート、居場所を通じて繋がった絆。

これら一つひとつのエピソードは、単なる「事業報告」の数字ではありません。皆様が現場で汗を流し、対話を重ねたからこそ生まれた、この街の新しい「希望」そのものです。書類の作成など、報告書からは見えにくいご苦労も多かったかと思います。

しかし、皆様が蒔いた種は、確実に地域の中に根を張り、芽吹き始めています。

市民活動支援センターは、これからも皆様の最も身近な伴走者でありたいと願っています。

活動の中で見つけた課題や、次に叶えたい夢など、ぜひまたセンターへお聞かせください。

皆様の素晴らしい活動が、長く豊かに広がっていくことを心より応援しています。

市民活動センター センター長